

2015 年度大学院生 学修活動に関するアンケートの結果（報告）

IR センター教育情報分析室・FD 委員会

I. アンケートの概要

2016 年 1 月から 2 月に大学院生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、施設・設備等の利用状況、学びの充実度、専門性・意欲の伸びと教育目標の達成（以下、専門性等の伸び）、諸活動に費やす時間、教育に対する満足度に関する項目より構成されている。修士課程 25 名（回答率 47.2%）、博士課程 1 名（回答率 8.3%）の回答が得られた。

II. 全体の傾向

1. 回答者の属性

回答者の研究科・専攻構成を表 1-1、属性を表 1-2 に示す。

表 1-1 研究科、専攻

	M 1	M 2	D 2	計
総合福祉学研究科				
社会福祉学専攻	7	2	1	10
福祉心理学専攻	3	3	0	6
臨床心理分野	5	2	0	7
教育学研究科	3	0	0	3
計	18	7	1	26

表 1-2 属性

項目	カテゴリ	度数	%
性別	男性	7	26.9
	女性	19	73.1
入試形態	一般選抜入試	10	38.5
	社会人選抜入試	11	42.3
	特別選抜推薦(学内)入試	5	19.2
海外留学	無	25	96.2
	有	1	3.8
国際交流	無	22	84.6
	有	4	15.4
アルバイト経験	無	9	34.6
	有	17	65.4
学外実習	無	16	61.5
	有	10	38.5
外部テスト	無	24	92.3
	専門知識・技能の検定試験	2	7.7
	語学能力検定試験	0	.0
大学院生による自主勉強会	無	9	34.6
	参加のみ	11	42.3
	発表	6	23.1
学会・研修会・研究会などへの参加	無	3	11.5
	参加のみ	21	80.8
	発表	2	7.7
取得免許・資格	無し	11	42.3
	自治体や民間(協会、学会、団体等)の認定資格	4	15.4
	教員免許・国家資格	11	42.3

2. 施設・設備等の利用状況

施設・設備等の利用状況を表 2-1 に示す。

表 2-1 施設等の利用状況

		なし	たまに	ときどき	頻繁に
図書館	度数	1	5	10	10
	%	3.8	19.2	38.5	38.5
保健室・ウェルネス支援室・学生相談室	度数	24	1	0	1
	%	92.3	3.8	0.0	3.8

次いで、授業履修時のシラバスの活用等について表 2-2 に示す。

表 2-2 履修モデル・アンケート等の活用

		参考にしな かった	あまり参考に しなかった	まあまあ参考 にした	かなり参考に した
シラバスの活用	度数	0	7	15	4
	%	0.0	26.9	57.7	15.4
履修系統図の活用	度数	2	8	12	4
	%	7.7	30.8	46.2	15.4

続いて、所属する研究科の教育目標と専攻・分野のディプロマ・ポリシーの認知状況について表 2-3 に示す。

表 2-3 研究の活用、教育目標、ポリシーの認知

		知らない	あまり知らな い	まあまあ知っ ている	かなり知って いる
本学のさまざまな研究内容の活用	度数	0	15	6	5
	%	0.0	57.7	23.1	19.2
研究科の教育研究上の目的・教育目標	度数	0	8	18	0
	%	0.0	30.8	69.2	0.0
専攻または分野の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)	度数	0	10	16	0
	%	0.0	38.5	61.5	0.0

3. 学びの充実度

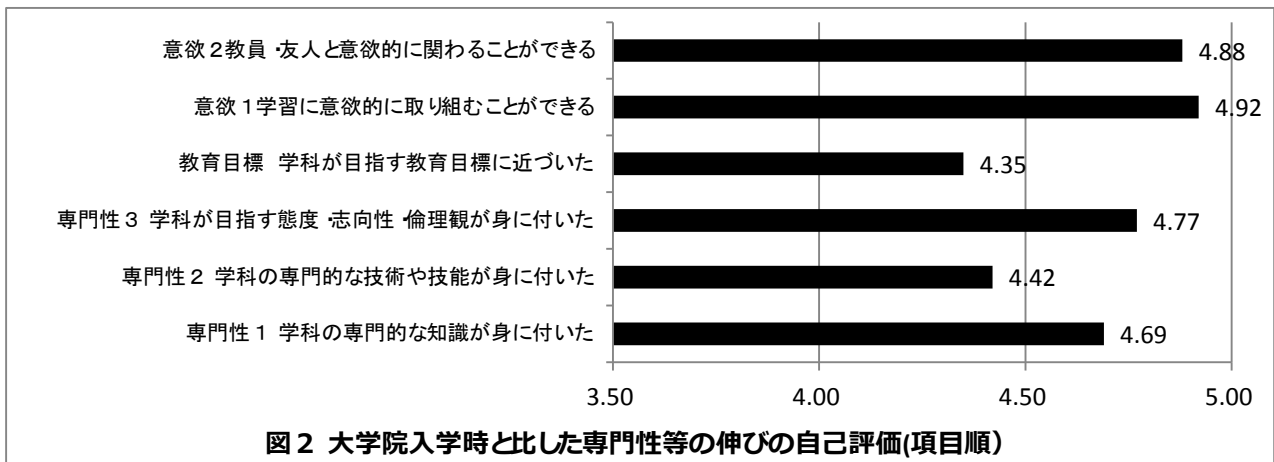
大学院での学びの充実度について図 1 に示す。なお、この項目は「かなり充実していた」を 4、「充実して
いなかった」を 1 とする 4 件法にて回答を求めており、平均値 2.5 以上であることが充実を示す 1 つの基準
となる。



図 1 大学院の学びの充実度

4. 専門性等の伸び

大学院入学時と比した専門性等の伸びについて、項目順にまとめたものを図 1-1、程度順にまとめたもの
を図 1-2 に示す。これら 6 項目は「非常にそう思う」を 6、「まったくそう思わない」を 1 とする 6 件法を
用いて調査されており、全ての項目において入学時と比べた伸びが示された。特に意欲に関して高い伸びが
示された。



5. 諸活動時間

1 週間当たりの諸活動にあてる時間について表3にまとめた。各項目において割合上位の2つの時間帯を太字にしている。

表3 1週間あたりの諸活動時間

		0時間	1時間未満	1～3時間未満	3～6時間未満	6～11時間未満	11～16時間未満	16～21時間未満	21～26時間未満	26～31時間未満	31時間以上
授業に出席する	度数	1	2	6	3	5	2	4	3	0	0
	%	3.8	7.7	23.1	11.5	19.2	7.7	15.4	11.5	0.0	0.0
履修している授業の予習や復習をする	度数	0	4	10	5	3	2	2	0	0	0
	%	0.0	15.4	38.5	19.2	11.5	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0
大学の授業・予習・復習以外の学習(読書など)をする	度数	2	3	9	7	1	1	2	0	0	1
	%	7.7	11.5	34.6	26.9	3.8	3.8	7.7	0.0	0.0	3.8
ボランティア活動をする	度数	16	2	5	1	0	0	0	0	0	2
	%	61.5	7.7	19.2	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
アルバイト仕事をする	度数	4	1	0	2	4	3	4	1	0	7
	%	15.4	3.8	0.0	7.7	15.4	11.5	15.4	3.8	0.0	26.9
新聞やニュースサイト等で時事問題等の情報をチェックする。	度数	0	6	11	5	3	1	0	0	0	0
	%	0.0	23.1	42.3	19.2	11.5	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0
修論・博論に向けた準備・研究・執筆	度数	1	6	7	3	4	0	0	1	1	3
	%	3.8	23.1	26.9	11.5	15.4	0.0	0.0	3.8	3.8	11.5
キャリア形成活動や就職・進学活動をする。	度数	19	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	73.1	26.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

6. 東北福祉大学での教育の満足度

1年次の学びの充実度について図3に示す。なお、これら5項目は「非常に満足」を6、「非常に不満」を1とする6件法にて回答を求めており、平均値3.5以上であることが満足していることを示す1つの基準となる。特に「キャリア形成・就職支援」「経済支援」に関して満足感が低いことが示された。

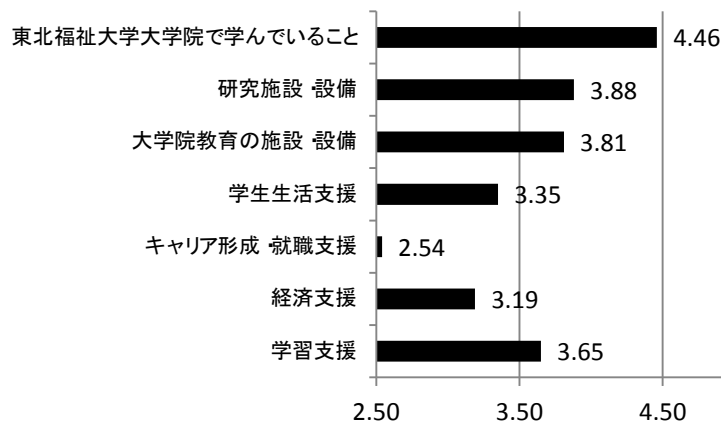


図3 大学院の教育への満足度

7. 属性と専門性等の伸びの関連

専門性等の伸びと統計的に有意に関連がみられた属性は表 4-1、表 4-2 の通りであった。

表 4-1 属性と専門知識等の伸びの関係 (1)

		性別	入試形態	海外留学	国際交流	アルバイト経験
専門性	所属する学科の専門的な知識					
	所属する学科の専門的な技術や技能					
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観					
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標					
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる					
	教員・友人と意欲的に関わることができる					無<有

表 4-2 属性と専門知識等の伸びの関係 (2)

		学外実習	外部テスト	大学院生による 自主勉強会	学会・研修会・研 究会などへの参 加	取得免許・資格
専門性	所属する学科の専門的な知識					
	所属する学科の専門的な技術や技能		無<有	無<参加、発表		
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観					
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標					
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる					
	教員・友人と意欲的に関わることができる	無<有	無<有			

8. 施設・設備の利用と専門性等の伸びの関連

専門性等の伸びと統計的に有意に関連がみられた施設・設備の利用は、表 5-1 の通りであった。特に係数が.20 を超えている項目を太字とした。特に「図書館」の利用が専門知識・技能の伸びと正に関連していることが示された。

表5-1 専門性等の伸びと施設利用の関係

		図書館	保健室・ウェルネス 支援室 学生相談室
専門性	所属する学科の専門的な知識	.47*	
	所属する学科の専門的な技術や技能	.48*	
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観		
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標		
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる		
	教員・友人と意欲的に関わることができる		

注1 :有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

続いて、専門性等の伸びと履修時のシラバス・履修系統図の活用に関する関係については、特に有意な関連が示されなかった(表 5-2)。

表5-2 専門知識・教育目標の達成、意欲と履修時の参考の程度

		シラバスの 活用	履修系統図 の活用
専門性	所属する学科の専門的な知識		
	所属する学科の専門的な技術や技能		
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観		
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標		
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる		
	教員・友人と意欲的に関わることができる		

注1 :有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

続いて表 5-3 から、本学にて行う、いわば学生にとって身近な研究活動に触れることにより、学生の専門性・意欲が向上することが示された。

表5-3 専門知識・教育目標の達成、意欲と教育目標他の認知の関係

		本学のさまざまな 研究内容の活用	研究科の教育研究 上の目的・教育目 標	専攻 分野の学位 授与方針(ディプロ マ・ポリシー)
専門性	所属する学科の専門的な知識	.51**		
	所属する学科の専門的な技術や技能	.48*		
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観			
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標			
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.46*		
	教員・友人と意欲的に関わることができる			

注1 :有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

9. 学びの充実度と学士力等の伸展の関連

専門性等の伸びと学びの充実度との関連について表 6 に示す。大学院生活への充実度と学習意欲に強い清野関連が示された。

表 6 専門知識・教育目標の達成、意欲と学びの充実度との関係

		大学院生活全般
専門性	所属する学科の専門的な知識	
	所属する学科の専門的な技術や技能	
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.72**
	教員・友人と意欲的に関わることができる	

注1 :有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

10. 活動時間と学士力等の関連

専門性等の伸びと有意に関連が示された諸活動は表 7 の通りであった。特に「アルバイト・仕事」に時間を費やすことが専門技術・技能の向上と負の関係にあることが示された。

表 7 専門知識・教育目標の達成、意欲と活動時間の関係

		授業出席	授業の予復習	授業・予復習 以外の学習	ボランティア	アルバイト・ 仕事	時事問題等 のチェック	修論・博論の準備 研究執筆	キャリア形成 活動
専門性	所属する学科の専門的な知識	.40*							
	所属する学科の専門的な技術や技能	.49*				-.53**			
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観								.40*
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標		.50**						
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.42*							
	教員・友人と意欲的に関わることができる								

注1 :表中、数値はスピアマンの順位相関係数

注2 :有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

11. 学びの充実度と専門性等の伸びの関連

専門性等の伸びと学びの充実度との関連について表 8 に示す。

表8 専門知識・教育目標の達成、意欲と教育への満足度との関連

		学習支援	経済支援	キャリア形成 支援	学生生活支援	教育施設・設 備	研究施設・設 備	学んでいるこ と
専門性	所属する学科の専門的な知識				.46*			.56**
	所属する学科の専門的な技術や技能							
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観				.40*			
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標							
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる				.47*			.54**
	教員・友人と意欲的に関わることができる							

注1 :有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01